

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200077		
法人名	株式会社 ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	千葉県松戸市六実1-47-2		
自己評価作成日	平成23年1月19日	評価結果市町村受理日	平成23年3月29日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成23年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ケアネット徳洲会の理念をもとに、ホームでは5つの実行方法を作成し、運営しています。以前は入居者様をお客様扱いしていた。職員が入居者様の出来る事までして差し上げていました。しかし、本年度からは「出来る事はして頂く」事に重点を置き、残存機能を生かして生活して頂くように試みました。今では「何かお手伝いしましょうか?」と言って下さる方もおられます。</p> <p>今の事業所の目標は</p> <ul style="list-style-type: none"> ①入居者様、職員共に笑顔を絶やさない ②入居者様、職員共に生き生きとです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(株)ケアネット徳洲会が運営するグループホームで、「生命を安心して預けられる・健康と生活を守る」をホームの理念とし、医療との連携を強みにグループの企業力を生かしたきめ細かなホーム運営を行っている。「利用者一人ひとりの馴染みの生活を大切に」、「出来ることやりたいことを応援する」等5つの方策を掲げ、ホーム長のリーダーシップ下職員一丸となって取り組んでいる。着実に成果を上げており、利用者アンケートには「本人の生き生きとした表情が見られるようになった」との回答が約8割にも達し、「介護度が下がった、夢のようだ」等家族の喜びの声も上がっている。同時に職員の生き生きとした働きぶりも好感が持たれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼では理念を唱和し、理念に基づいたケアを心掛けている	ホームの理念は玄関に掲示し、職員間でも毎朝唱和するなどして介護現場に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には町内会長、町内に在住の民生委員も参加下さる。小学生との交流、また、地域の文化展に入居者様の作品を出展している。愛のエコキャップ運動も町内会の協力を得ている	運営推進会議には地域の関係者の参加も多く、緊急時にも協力が得られる関係を築いている。小学生の体験学習の受け入れや住民との茶話会の実施、エコキャップ運動等を通じて地域との連携を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方や地域包括の方を招待した認知症予防についての茶話会を実施		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施している会議で頂くご意見も参考にさせて頂き、実践している	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、詳細な議事録を残し関係者にも配布している。毎回地域包括職員、看護師、民生委員などのほかに家族の参加も多く、ホーム運営状況をオープンにして話し合い信頼関係を築いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは連絡を取り不明な点や手続き方法を教えて頂いている。地域包括とは見学者の紹介も頂いている。介護相談員は月に1回、入居者様の相談にみえている	地域包括支援センターと緊密な連携を取っており、また毎月松戸市の介護相談員の訪問も受けている。市の担当課とは各種相談に乗ってもらったり指導を受けたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。徘徊、離れホームでの安全の為、やむを得ず玄関は電子錠	身体拘束廃止についての内部研修などを通じて職員の理解を深めており、身体拘束はしていない。玄関には施錠しているが、離れホームする利用者にはGPSで居場所を特定する仕組みを導入したり、住民の協力も得て対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年は研修の機会がなく、マニュアルでの教育。今年は内部研修予定、外部研修後の内部研修も予定		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、実践者研修修了者の5名で少しずつ広めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定は一部行ったが、クレームはない		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を頂いたら報告し合い、ケアプランに落とし、共有している。入居者様やご家族様の意向に沿えるように心掛けている	運営推進会議や食事会等に毎回多数の利用者家族の参加を得て、家族にもホームの運営に参加してもらう関係を作り上げている。運営推進会議の議事録は参加できなかった家族にも送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回は管理者と職員との面談の時間を設け、また、月に1度の全体会議、フロア会議での意見をもとに改善を行っている	月1回の全体会議、フロア会議で職員間で話し合い、ホーム運営を行っている。ホーム長は年齢的にも職員と同世代で、何でも相談できる頼りがいのある先輩として信頼されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々、業務に関する担当を割り当て、責任を持って勤められるように、また、常に職員の意見を聞くよう心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を案内し研修を受けられるような時間調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの施設との交流、市内のグループホーム協議会に加入		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	場所、他の入居者様、職員と、ホームでの生活に慣れて頂けるよう、時間をかけて行う。また、情報を共有しあい、傾聴している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに電話で連絡を入れ、疑問点に応える。面会時には入居者様も交えて、近況報告をし、安心して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族のアセスメントをし、カンファレンスで話し合っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り、家事は入居者様と共に行い、関係を築いている。正月に自宅に戻られた方はホームに戻られた時「帰ってほっとした」と言われていた		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの相談ごとにも傾聴している。また、イベントはご家族様参加型へ移行して行っている。外食会にも参加して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達が面会にみえる方もおられる。お友達がイベントに参加して下さることもある	ホームで開く食事会やイベントには、家族や友人が来訪し、馴染みの人との関係が継続されている。地元小学校の音楽鑑賞会に出かけ小学生との交流も実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が孤立しないのは無理があるが、どうしたらいいのか常に心掛け、声掛け、散歩、買い物などで支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方の面会を実施している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活から読みとったり、会話から聞き取り、ケース会議からケアプランへ落とししている	一人ひとりの出来ること、やりたいことを把握して「ケース会議」で話し合い、ケアプランに反映している。家族からの情報なども「共有ノート」を活用して、全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取った小さな情報も欠かす報告しあい、共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者⇔夜勤者の申し送りは欠かさず行う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のカンファレンスをもとに、ケアプランに落とし、モニタリング、評価、見直しをしている。3カ月毎にご家族と面談をし、計画を更新、承認、配布を行っている	月毎の「ユニット会議」では本人、家族の意向を基にカンファレンスをして、ケアプラン作成、モニタリング、評価、見直しを行い、ケアプランは家族にも渡している。担当職員制により、自由に普通の生活が出来る事を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とは別に個別の記録を作成し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージを希望される方には訪問マッサージを紹介		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化展に出品 消防署からの教育 地元小学生との交流		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医が毎月2回往診 急変時も電話の対応で往診して下さる 電話での相談にも応じて頂いている	契約内科クリニック医師の月2回の往診、訪問看護師による健康チェックが行われ、緊急時にはグループの千葉西病院の支援がある。訪問歯科による治療や、義歯作りも受けられる。マッサージは希望により紹介している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週1回の健康チェックにきて頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同グループの総合病院に依頼し、急変時の入院受け入れをスムーズに行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成21年5月より看取り加算を頂いている。看取りについて指針を新たに作成し、ご家族にも新たに説明をした。医師から教育を受け、職員にも研修を行った	昨年「重度化した場合における医療体制指針」、「看取りに関する指針」を整備し、家族にも説明して共有している。職員は契約クリニックの医師から重度化や終末期への対応についての心構えや、知識、技術などを学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署の救命処置訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、消火訓練を実施 夜間を設定の町内会との避難訓練を検討中	2ヶ月に一度、入居者も参加して避難訓練、消火訓練を行っている。設備面では2階からの緊急避難用滑り台が設置されており、広いウッドデッキは避難場所となっている。スプリンクラーも新たに設置する等、災害に対しては特に配慮を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	使用禁止用語を貼りだし、接遇の内部研修を行った。職員で注意し合っている。 また、衣類を自ら選べる環境を整えている	これまでの生活が継続できるよう、「できる事、やりたい事」を本人本意に支援している。職員による「使用禁止語」が作られ「ダメ!」「～させる」など禁止とし、一人ひとりの人格を尊重した「心地よい言葉のみ」を使う接遇が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	団体生活に囚われず、自由に過ごされる方もおられる。 また、調理実習を設けている(食べたい物を決めて頂き、買い物に行き、調理を行う)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクの時間を工夫して設ける様に心掛け、出来る事、やりたい事の支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定の出来る方はご自分で衣装を選んで頂く環境を整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の調理は入居者様と職員が一緒に行えるように支援している。洗い物やお茶入れ等も入居者様が行って下さる	台所に立つという入居者の習慣を大切に、調理や後片付け迄出来るだけ一緒に行えるように支援している。「調理実習」の愛称で親しまれている入居者による食事作りの日には、献立から買い物、調理まで一緒に行い好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食べられる量、飲める量の把握をし、チェックを行っている。食べて頂ける工夫もしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。歯間ブラシを使用。訪問歯科医からのアドバイスや受診も充実		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に応じて対応している。基本はトイレでの排泄を心掛けているので、時間でのトイレ誘導も実施している	昼夜ともトイレでの排泄を基本として、一人ひとり時間を見計らって誘導をしている。言葉使いにも配慮し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘や下痢の無いようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂場は1日解放。基本は午後だが、その日の入居者様のご希望に応じて朝、夕刻にも対応している。	一日おき、午後の入浴が基本であるが、個浴で希望する時に入浴できる。比較的元気な方には必要以上に手助けしない、見守り中心の支援を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は各フロア1人での対応。安心して休んで頂ける様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	不定期だが、医師と共に服薬の見直しを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのニーズに合った支援をしている。最近はノンアルコールビールはイベントでの必需品となっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中には散歩の支援をしている。日用品の買い物に入居者様と出かける事も多い。また、ご家族との外食会もイベントとして毎月行っている	午前中の散歩が日課になっており、近くのスーパー等に日用品の買い物と一緒に出かけることも多い。離ホームする方には、後方から見守り、時間を見計らい声かけして一緒に帰るなど、本人の満足と安全を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理は管理者が行っているが、個人の買い物を入居者様と一緒に買い物に出掛ける方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は入居者様の作品を展示したり、イベントの写真を貼っている。干支や季節のディスプレイも欠かさないよう心掛けている	玄関を入ると、入居者手作りの市の文化祭出展、受賞作品「手編みの暖簾」が飾られ、明るく開放感がある。日当りの良い食堂を兼ねた居間は台所から見渡せ、自由で心地よい生活が出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立されている方はそれぞれが気の合う方を見つけておられ、一日話をされている事もある。一人で時間を過ごされる事もあり、自由に生活をして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を使用している方もおられる。以前作ったものを居室に飾って楽しまれている方もおられる。	南面の居室は明るく、それぞれに好みの家具や仏壇などが持ち込まれ、我が家のような雰囲気の部屋作りをしている。整理整頓も出来ることは自分でして、気持ちよく住む事を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆様が自由に生活出来るように見守りを強化、出来る事、やりたい事の援助、一緒に生活をしている実感を味わえる毎日を提供したい		